

岐阜市新庁舎基本設計

Gifu City Hall

平成28年3月
岐阜市

はじめに	1
これまでの経緯		
1. 設計の基本方針		
1-1 設計コンセプト	2
1-2 新庁舎の基本理念・コンセプト・事業スケジュール	3
1-3 計画概要	4
2. 建築計画		
2-1 全体計画		
2-1-1 配置計画・動線計画	5
2-2 立面計画		
2-2-1 外観のデザインコンセプトと立面計画	6
2-2-2 周辺環境への影響	7
2-3 平面計画		
2-3-1 新庁舎のフロア構成	8
2-3-2 各フロアのレイアウト		
1階	9
2階	10
3階	11
低層階の内観イメージ	12
4階	13
5階	14
6階～8階	15
9階～12階	16
13階～16階	17
17階～R階	18
2-4 サイン計画	19
2-5 防災計画		
2-5-1 新庁舎の防災機能	20
2-5-2 構造計画	21
2-6 環境配慮計画		
2-6-1 岐阜の「地・水・光・風」と共生する新庁舎	22
3. ランドスケープ計画		
3-1 ランドスケープ計画		
3-1-1 ランドスケープ計画のコンセプト	23
3-1-2 広場計画のコンセプト	24
3-1-3 広場の活用イメージ	25

はじめに

この度、市民の皆様のご意見をはじめ、様々な検討を重ね、「岐阜市新庁舎基本設計」を取りまとめましたので、お知らせいたします。

「岐阜市百年の大計」にふさわしい市庁舎として、これまで以上に市民と行政が力を合わせ、「まちづくり」を考える新たな協働の拠点とするとともに、災害に強く、環境に配慮した庁舎となるよう事業を推進していきます。

これまでの経緯

岐阜市では、昭和41年の建設から半世紀が経過し、老朽化が進み、利便性や使い勝手、防災拠点としての機能に課題を抱える現本庁舎の建て替えについて、平成16年から岐阜大学医学部等跡地の活用と合わせ検討を開始しました。

その後、約10年にわたる検討を経て、市議会の平成26年11月定例会において、岐阜大学医学部等跡地への移転新築が決定されたことから、同年12月に「岐阜市新庁舎建設基本計画」を策定するとともに、新庁舎建設事業に本格的に着手し、昨年5月から基本設計の作成に取り組んできました。



○新庁舎の位置

1. 設計の基本方針

「つかさのまち」という場所 — 市民に愛され、市民協働の拠点となる庁舎 —

社会環境が急速に変化する現代、新しいまちづくりが求められています。
 そのためには、市民と行政が一体となって、まちづくりに取り組む新たな拠点の創出が重要です。
 岐阜市民が「この地に住んでよかった」と実感できるように、新庁舎は周辺の自然や都市環境と調和を図るとともに、ぎふメディアコスモスと一体となって、「つかさのまち」を形成し、市民と行政の協働の拠点を目指します。



■ つかさの森

県都の魅力を演出する緑あふれる核として、「つかさのまち」を彩る緑やせせらぎにより、「つかさの森」をつくります。
 市民が気軽に訪れ、岐阜の自然を感じられるあらたなまちづくりの拠点を創出します。



■ みんなの広場 カオカオ

新庁舎とぎふメディアコスモスが連携して、にぎわいの相乗効果を生み出します。
 みんなの広場 カオカオを拡充し、広場に面して市民交流スペースやレストランを設けるとともに、防災拠点として活用します。



■ みどりの丘

「つかさのまち」を見渡すみどりの丘。周辺のまちなみや金華山と連続する景観をつくります。
 岐阜や金華山の植生にちなんだ植栽を配し、子供たちの学び場や、市民の交流の場となります。



■ 「岐阜らしさ」を活かした新庁舎

「岐阜らしさ」を喚起させる「長良川」「金華山」「岐阜の伝統文化の繊細さ」の3つのアイデンティティを新庁舎のさまざまなデザインに取り入れ、岐阜のまちなみと調和し、歴史を感じさせる新庁舎をつくります。



■ 新庁舎の基本理念

平成26年12月に策定した「岐阜市新庁舎建設基本計画」において、基本理念と、その実現のため、6つの基本方針を掲げています。

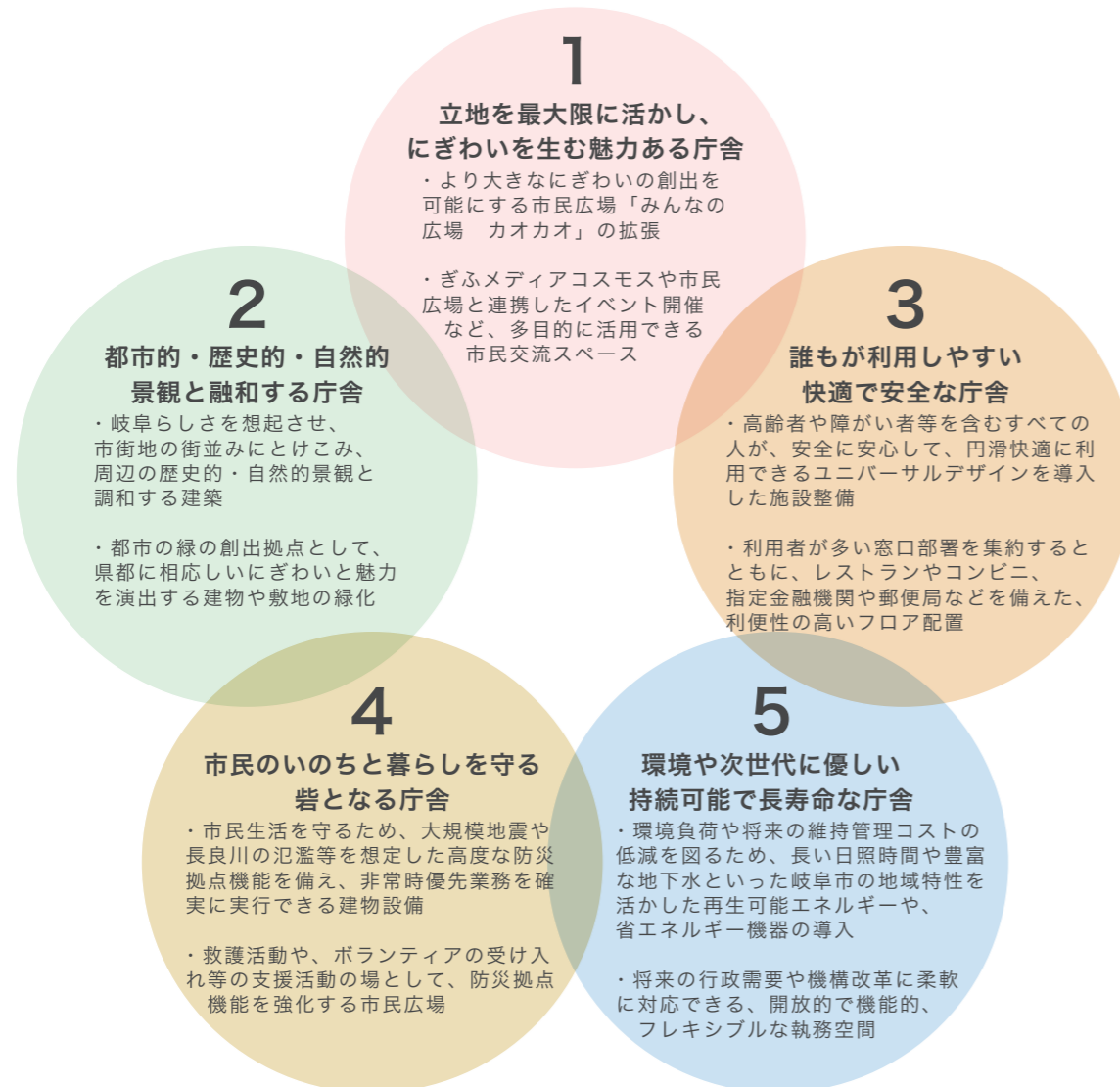
-基本理念- 市民に親しまれ、長く使い続けることを前提とした新庁舎

-基本方針-

- 1 窓口サービスなどの利便性等の向上
- 2 周辺環境との調和、環境負荷の低減
- 3 非常時優先業務及び復旧・復興業務拠点としての機能強化
- 4 執務環境の柔軟性・効率化
- 5 セキュリティ対策、電子情報保護対策の強化
- 6 ライフサイクルコストの縮減

■ 新庁舎の5つのコンセプト

新庁舎は、基本理念の実現に向け、次のような点に配慮しました。



○基本理念の実現に向けた新庁舎の5つのコンセプト

■ 事業スケジュール

新庁舎建設事業は、今年度中に基本設計をまとめ、翌平成28年度は、実施設計を行い、平成29年度は、法的手続きや発注に向けた準備を行います。

また、建設工事は、平成29年度後半から平成32年度中の約3年間で予定しており、平成33年度の新庁舎開庁を目指し整備に取り組んでまいります。

年	2015(H27年度)	2016(H28年度)	2017(H29年度)	2018(H30年度)	2019(H31年度)	2020(H32年度)	2021(H33年度)
全体工程	基本設計	実施設計	発注準備	工事期間(新庁舎)			新庁舎業務開始
					工事期間(新庁舎立体駐車場)		

○新庁舎建設事業スケジュール



○敷地南側の県道岐阜各務原線から見た新庁舎(イメージ)

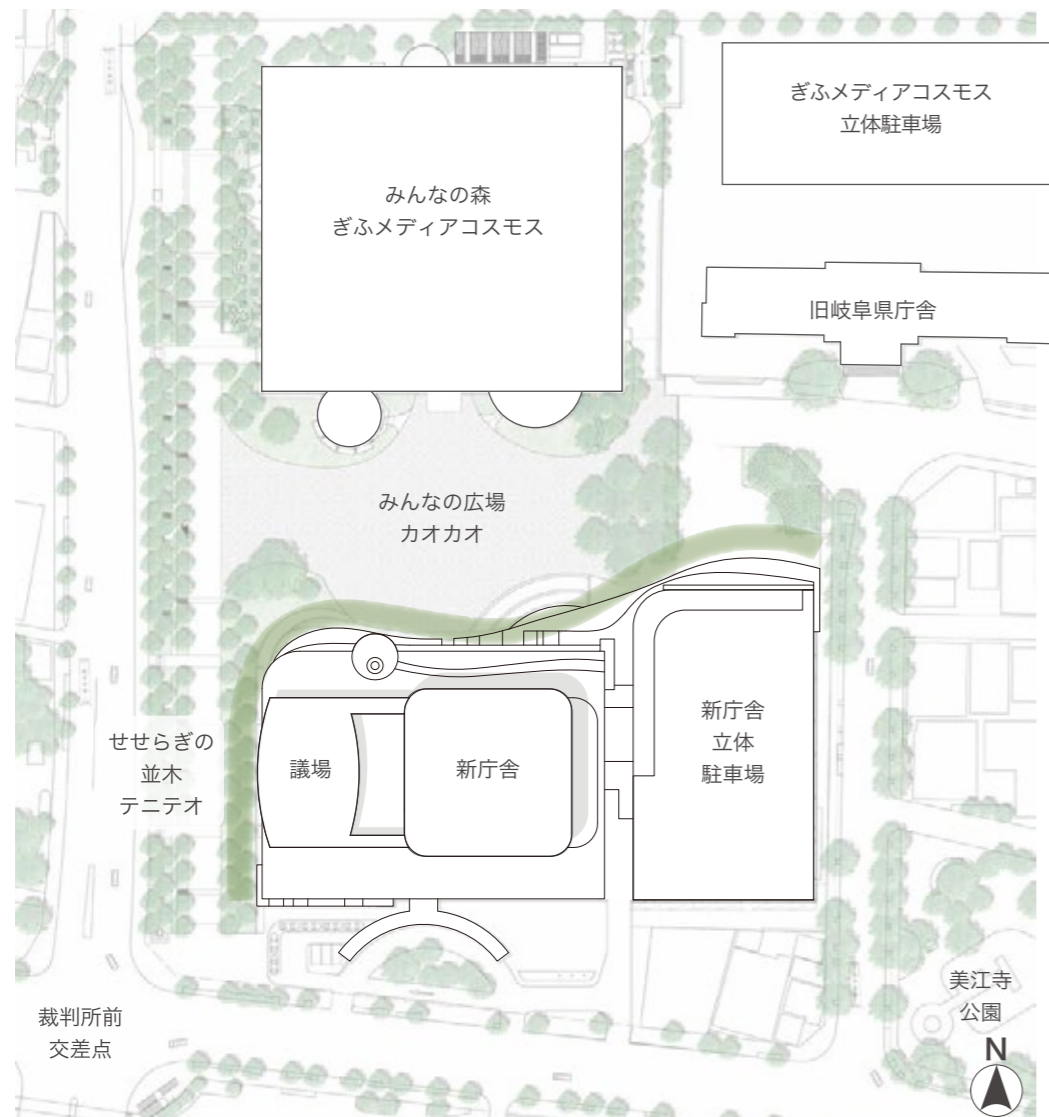
■ 敷地条件概要

計画地	岐阜県岐阜市司町 40 番地 1 ほか
敷地面積	20,400 m ²
用途地域	商業地域
防火地域	準防火地域
高度地区	なし
日影規制	なし
その他の地域地区指定	駐車場整備地区
建ぺい率	90%
容積率	400%
周辺道路など	南側：県道 152 号線：岐阜各務原線 幅員 25.0m 西側：市道忠節町 1 丁目美江寺町 2 丁目線 幅員 23.3m 東側：市道司町 2 号線 幅員 18.0m 北側 隣地（ぎふメディアコスモス敷地）

■ 建築計画概要

建物名称	岐阜市新庁舎
用途	事務所（庁舎）
建築面積	5,600 m ²
延べ面積	39,300 m ² （その他軒下面積等 600 m ² ）
階数	地上 18 階、塔屋 1 階
構造	鉄骨造、基礎免震構造
最高高さ	81.3m
電気設備	受変電設備、発電機設備、通信設備、防災設備等
機械設備	給排水衛生設備、ガス設備、消火設備 空調・換気設備、自動制御設備等

建物名称	新庁舎立体駐車場
用途	自動車車庫、倉庫等
建築面積	3,700 m ²
延べ面積	17,100 m ²
階数	地上 5 階、塔屋 1 階
構造	鉄骨造
最高高さ	20.5m
電気設備	照明設備、防災設備、駐車場管制設備等
機械設備	給排水衛生設備、消火設備 空調・換気設備等
駐車台数	458 台 来庁者駐車場 393 台（うち ハートフル駐車場 27 台） その他（公用車、観光バス等）
駐輪台数	約 490 台（立体駐車場内及び新庁舎西側）



○新庁舎と立体駐車場の配置図



○みんなの広場 カオカオに向けて開かれた「みどりの丘」

2. 建築計画

2-1-1 配置計画・動線計画

■ 新たなにぎわいを創出する市民広場

ぎふメディアコスモスと連携して、にぎわいの相乗効果を生み出すため、「みんなの広場カオカオ」をより開放的に整備するとともに、この広場に面して、市民交流スペースやレストラン、テラスなどを連続的に配置します。

また、この広場には、マンホールトイレや非常用電源などを整備し、救護活動やボランティア活動の受け入れといった防災広場としても活用します。

■ ぎふメディアコスモスの人の流れと対応する動線計画

長良川の雄大な流れのように人々をつかさのまちに引き込み、ぎふメディアコスモスの人の流れと対応する動線とします。

また、バス、車、自転車、徒歩など様々な交通手段による来庁者に配慮して、東西南北の4方向に出入口を設け、中央の開放的なエントランスモールに導きます。

■ 周辺環境と調和する建物形状

新庁舎と立体駐車場を当初の計画より南側に寄せ、ぎふメディアコスモスとの間隔を広げるとともに、新庁舎をスリムな形状にして、東側へ寄せて配置します。

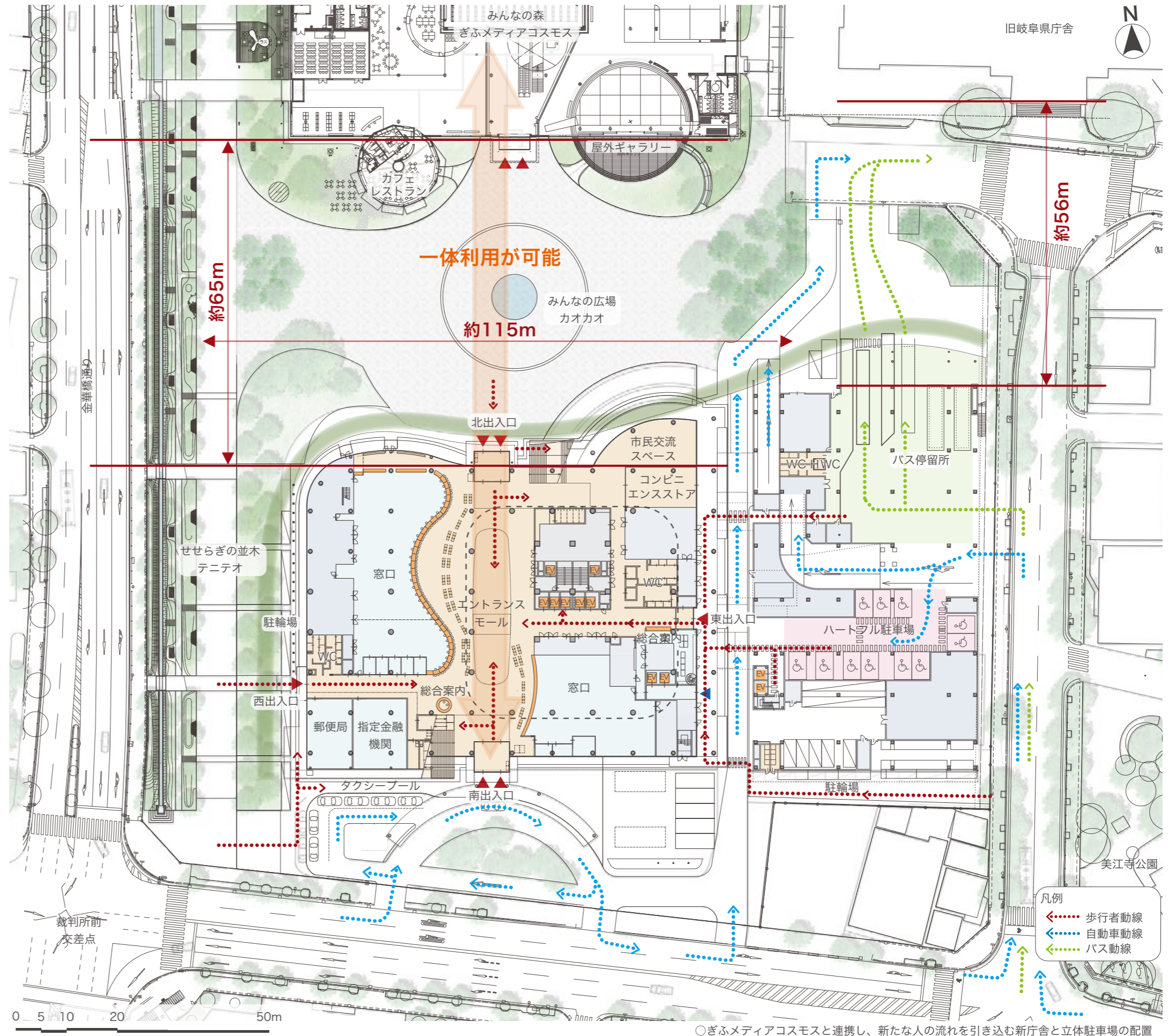
これにより、ぎふメディアコスモスやカオカオなどから、圧迫感を解消し、青空が見える開放的な空間を創出するとともに、これらの施設の日照を確保します。

また、中高層部の四方を曲線形とすることや、上部からの風が低層部の天井部分で分散することによって、広場や周辺に及ぼすビル風の影響を軽減します。

■ 利便性を高めた来庁者駐車場

新庁舎に隣接する立体駐車場は、来庁者の駐車スペースのほか、連節バスも停車できるバス停を設けるなど、様々な交通手段に対応します。

また、高齢者や障がい者、子ども連れの方々に配慮して、27台分のハートフル駐車場を設置するとともに、多目的トイレやエレベーター、雨に濡れない渡り廊下などを設けます。



2-2-1 外観のデザインコンセプトと立面計画

■ 岐阜らしさを表現した外観計画

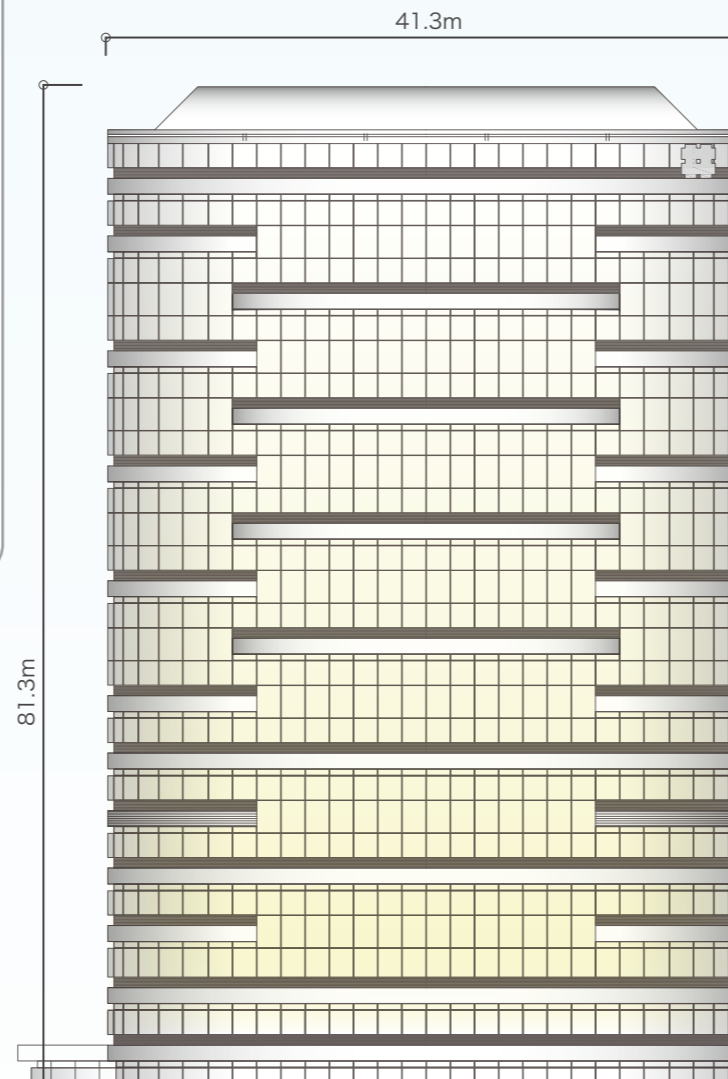
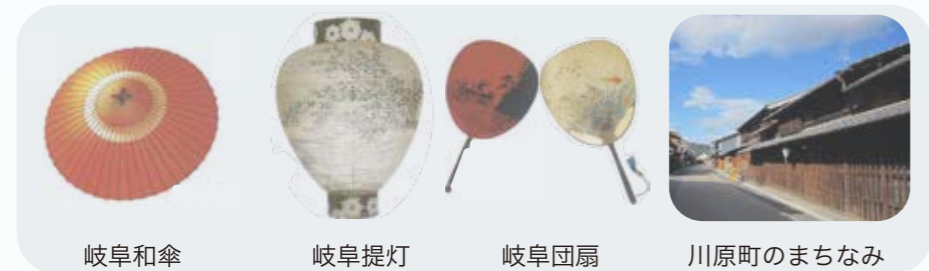
「岐阜らしさ」を喚起させる「長良川」「金華山」「岐阜の伝統文化の繊細さ」の3つのアイデンティティを、新庁舎のさまざまなデザインに取り入れ、岐阜から世界に情報発信する光の塔のような外観とします。

伝統文化を感じるデザイン

岐阜の伝統文化を感じさせる繊細なデザイン

岐阜の伝統工芸や伝統的なまちなみで見られる繊細な線の重なりをモチーフに、市民と職員の様々な活動が折り重なるようなステージを表現します。

岐阜らしい繊細な線の重なり

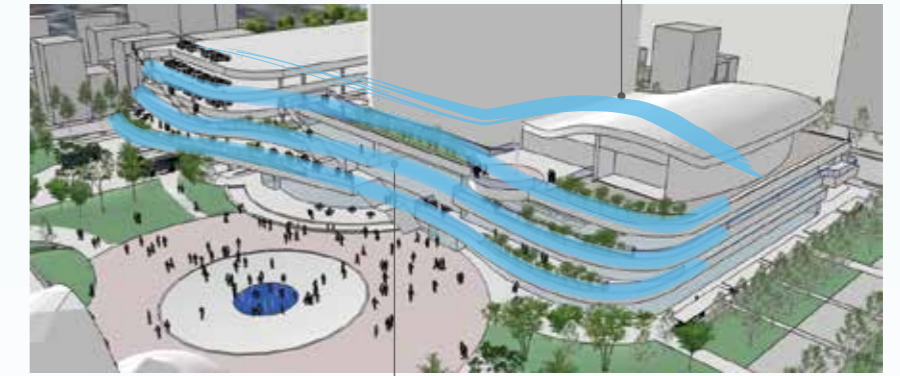


長良川の流線

長良川の水の美しさと雄大さを感じさせる流線

新庁舎は、柔らかな流線を用いた外形とすることで、長良川にそよぐ心地よい風や清らかな水の流れを喚起させ、周辺の景観と穏やかな調和を図ります。

長良川にそよぐ風を感じさせる流線形のデザイン



川の流れのようなやわらかな外形

金華山の緑

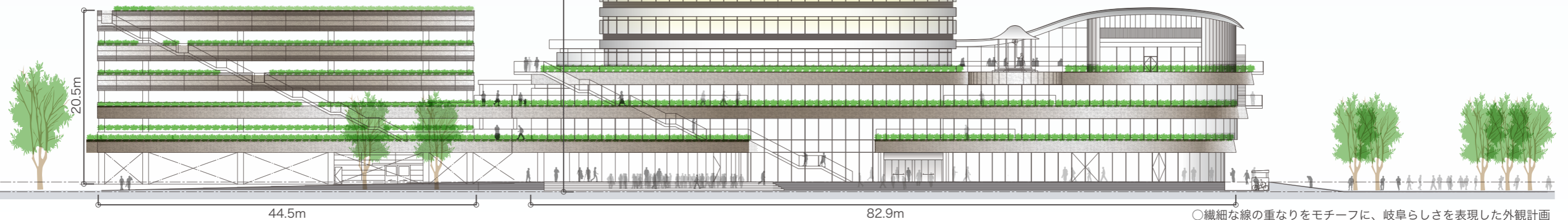
金華山の豊かな自然と安らぎを感じさせる緑

低層部は、隣接する「みんなの森 ぎふメディアコスモス」と高さを揃え、街区としての一体感を与えます。低層部の北側には「みどりの丘」となる段状のテラスを設け、「みんなの広場 カオカオ」に向けて親しみやすく、市民の憩いの場となる緑化を施します。

つかさのまちを見渡す『みどりの丘』



新庁舎と駐車場を一体的に緑でつなげる



○繊細な線の重なりをモチーフに、岐阜らしさを表現した外観計画

2-2-2 周辺環境への影響

■ ぎふメディアコスモスやみんなの広場カオカオからの眺望

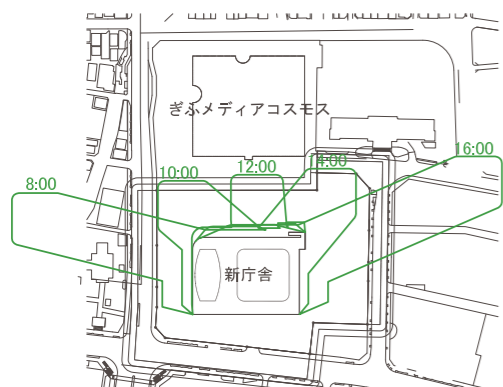


- ・低層部はぎふメディアコスモスの高さに合わせて、一体感を創出します。
- ・中高層部をスリムな形状にして東側に寄せることにより、ぎふメディアコスモスやカオカオから眺望した時の圧迫感を軽減し、空の開放感を生み出します。
- ・これらの形状の工夫や建物全体を南側へ寄せる配置により、ぎふメディアコスモスなどへの日影の影響も軽減します。

空の開放感を生み出し、圧迫感が少ない

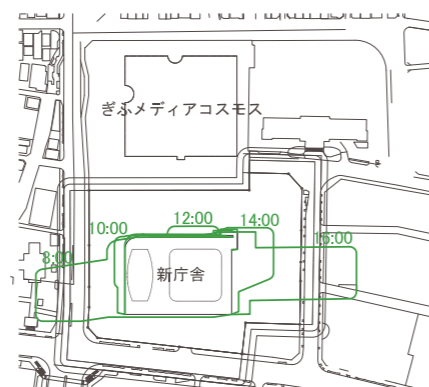
○ぎふメディアコスモスからみた眺望に配慮した建物形状

■ 日照への影響



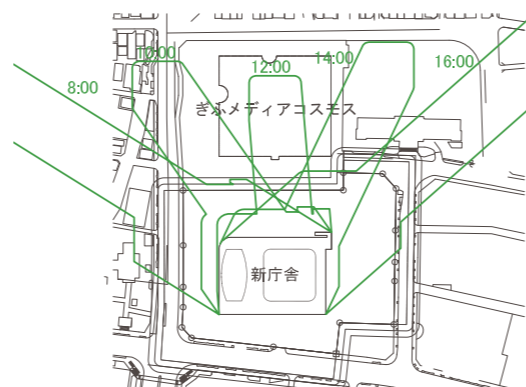
春分 (3/21 頃)・秋分 (9/23 頃)

ぎふメディアコスモスは日影となることはありません。
カオカオは、各時間帯において、日影となりますが、新庁舎をスリムな形状にすることで、日影の幅が狭くなり、時間とともにその範囲が速やかに移動していきます。



夏至 (6/22 頃)

太陽が最も高い位置を通るため、ぎふメディアコスモス、カオカオともに、日影となることはありません。

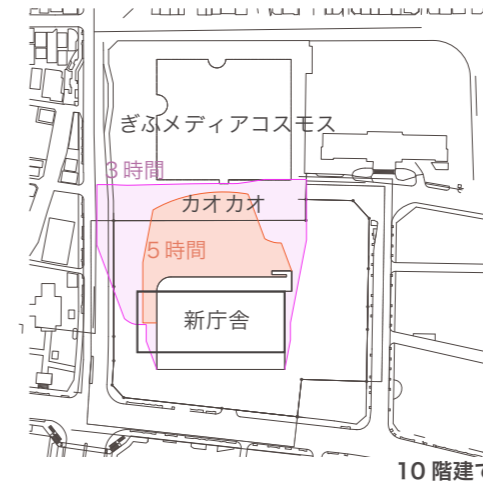


冬至 (12/22 頃)

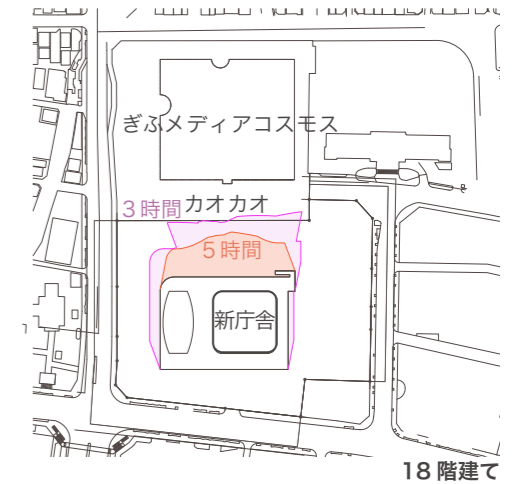
ぎふメディアコスモス、カオカオともに日影となりますが、新庁舎をスリムな形状にすることで、日影の幅が狭くなり、時間とともにその範囲が速やかに移動していきます。

■ 冬至における日影の影響

新庁舎を10階建て程度とする場合、カオカオの広範囲にわたって、長時間、日影になります。しかし、これをスリムな形状とすることで、長時間に渡り日影となる範囲が狭くなり、その影響が軽減されます。



10階建て

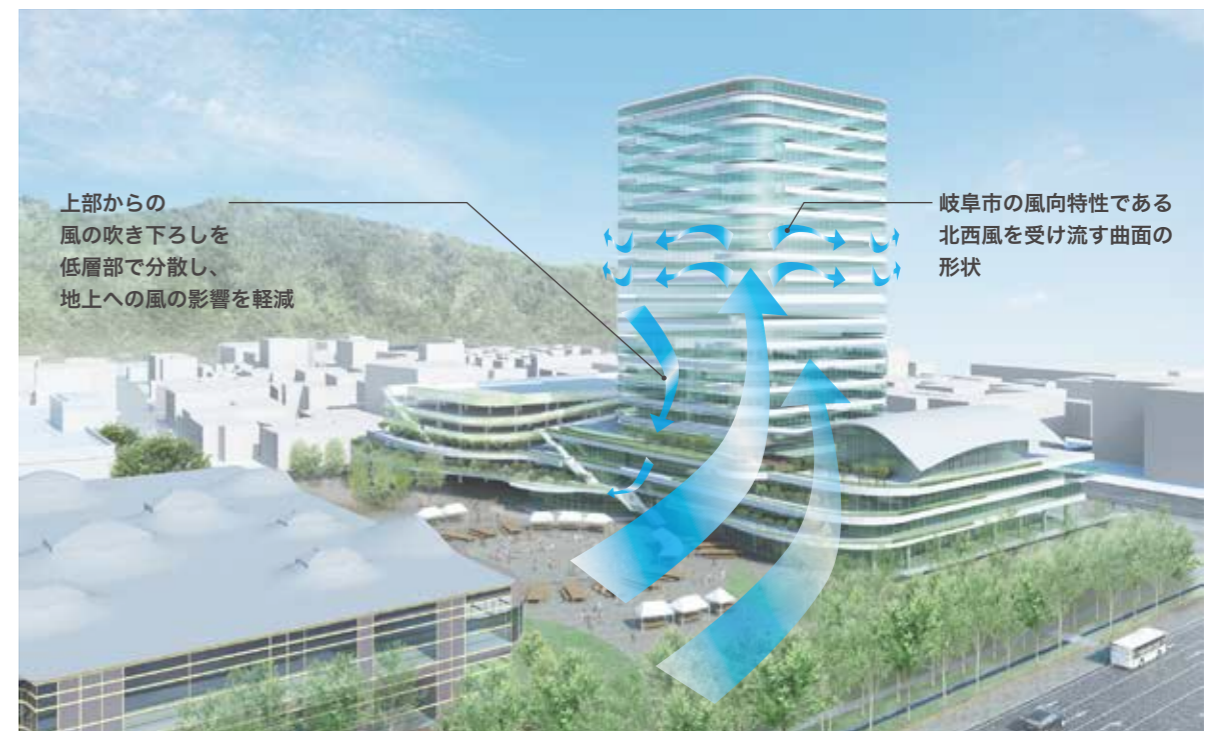


18階建て

○日影の影響を受ける時間比較

■ ビル風の影響

- ・新庁舎の中高層部の四方を、緩やかな曲面とすることで、風を受け流し、ビル風の影響を軽減します。
- ・大きな低層部を設けることで、上部からの風の吹き下ろしが分散され、地上へのビル風の影響を軽減します。



○周辺へのビル風の影響を軽減する建物形状